

病院の実力

～栃木編 140

スポーツ障害 （膝・肘）

今月と来月の病院の実力は、スポーツ傷害を取り上げる。今回は「膝・肘」編。日本整形外科学会のスポーツ認定医がいる医療機関の2018年の手術件数などを掲載した。

膝関節は、太ももやすねなどの骨を四つの靭帯と半月板などで支え、体の安定を保つ役割を果たす。ジャンプ後に着地してもふらつかず、押されても倒れないのは、膝関節のおかげだ。
前十字靭帯は前後の動きをつかさどる。酷使したり、大きな衝撃が加わったりすると損傷する。断裂すると自然には修復しない。
半月板は膝の衝撃を和らげ

術前・術後 リハビリ必須

病院の実力「スポーツ傷害」
医療機関別2018年治療実績（読売新聞調べ）

医療機関名	スポーツ傷害手術件数			リハビリ施設	
	膝		肘	者1日平均利用数	うちスポーツ傷害
	再建手術	半月板縫合術、切除術	内側側副靭帯再建術		
栃木					
新上三川	71	305	0	338	—
国・宇都宮	2	35	0	174	—
自治医大	10	10	0	—	—
茨城					
いちはら	104	225	0	00	—
水戸済生会総合	10	30	2	220	—
土沢整形外科	手術せず（提携施設あり）			—	—
群馬					
善衆会	273	896	0	323	—
慶友整形外科	69	152	17	134	30
井上	—	—	—	22	—

「国・」は国立病院機構、「—」は無回答または不明

る「クッション」。だが、膝を大きくねじるなどすると断裂することがある。膝の曲げ伸ばしができず、歩くことも難しくなる。
損傷の度合いが小さければ、膝回りの筋肉を鍛える保存療法により、日常生活の動作や軽いスポーツができるまで改善が望める。ただ、損傷が大きいと手術も選択肢となる。

前十字靭帯再建術は、自分の腿の一部を移植する。半月板は、断裂した部分を縫い合わせる「縫合術」と、損傷した部分を切り取る「切除術」がある。関節鏡を使えば手術痕は小さい。
手術前後のリハビリは復帰を早めるために必須だ。一覧表にはリハビリ施設の平均利用人数も示した。
成長期に投球のしすぎで靭帯などを傷める「野球肘」は、保存療法が基本だ。

全国の調査結果は18日の「安心設計面」に掲載しました。

2019年(令和元年)12月22日(日曜日)発刊
読売新聞(栃木版)26面 掲載